

アサヒホールディングス株式会社

2023年3月期 第2四半期決算説明資料

2022.10.27

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



I. 2023年3月期 第2四半期決算

(2022年4月~2022年9月)

Financial Results for Q2 FY2023.3

II. 参考資料

Appendix

単位：億円

	2022/3期	2023/3期		2023/3期	
	2Q	計画	実績	当初計画	修正計画
売上収益	969	1,000	1,327	2,000	2,700
営業利益	137	120	115	240	240
営業利益率	14.1%	12.0%	8.7%	12.0%	8.9%
税引前利益	136	117	102	235	226
当期利益※1	97	80	73	160	156
設備投資	32	-	21	65	65
減価償却費	13	-	16	30	30

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

貴金属事業

- ✓ 貴金属リサイクル分野は、新設した坂東工場の効果により宝飾分野を中心に回収量は大幅に増加。一方でデンタル分野及び触媒分野の回収量減少傾向は続く。
- ✓ 北米精錬分野は、昨年に続き製品加工・販売が好調。

分野	事業環境
デンタル	感染症対策継続による患者数制限は続いており、代替製品の浸透とあわせ、回収量の減少傾向は継続
宝飾	貴金属価格高騰が続き買取需要は堅調、買取業者からの回収量は高水準で推移
触媒	自動車販売台数が低迷する中、高品位帯の回収に注力、海外は韓国触媒メーカーからの回収が増加
エレクトロニクス分野	中国の景気減速で通信関連機器の需要が低下、生産調整の影響を受け回収量が伸び悩む
北米精錬	製品加工・販売などの取引が好調

環境保全事業

教育関連、建設関連からの回収量は増加傾向にあるが、自動車関連は依然として低迷。医療関連はコロナ関連の特需が一服傾向にある。

業界	事業環境
教育・研究機関	教育機関からの回収量は前年同期と比較し増加傾向
建設	民間非居住建築物の着工件数は増加傾向であり、関連して発生する廃棄物回収量も増加傾向
自動車	半導体・部品不足による工場稼働減が続いており、昨年に続き廃棄物回収量は低迷
食品	アフターコロナの外出需要は増加傾向にあるものの、ピーク時に比べると回復力は弱い
医療	感染者数の一服により宿泊療養施設が減少し、下期以降コロナ関連医療廃棄物の回収量は減少見込み
化学	化学工業の生産指数は前年に比べ若干の増加基調

貴金属リサイクル分野(国内・アジア)

2023/3期2Q実績

宝飾分野からの販売量・回収量が増加
 デンタル分野及び触媒分野からの回収量の減少に伴う利益率の低下や、新工場立上げに伴う費用の増加等の影響あり

→増収・減益

北米精錬分野

2023/3期2Q実績

製品加工・販売が引き続き好調に推移。またストックテイクは計画を上回ったが、昨年のストックテイクは2年分発生したため減益

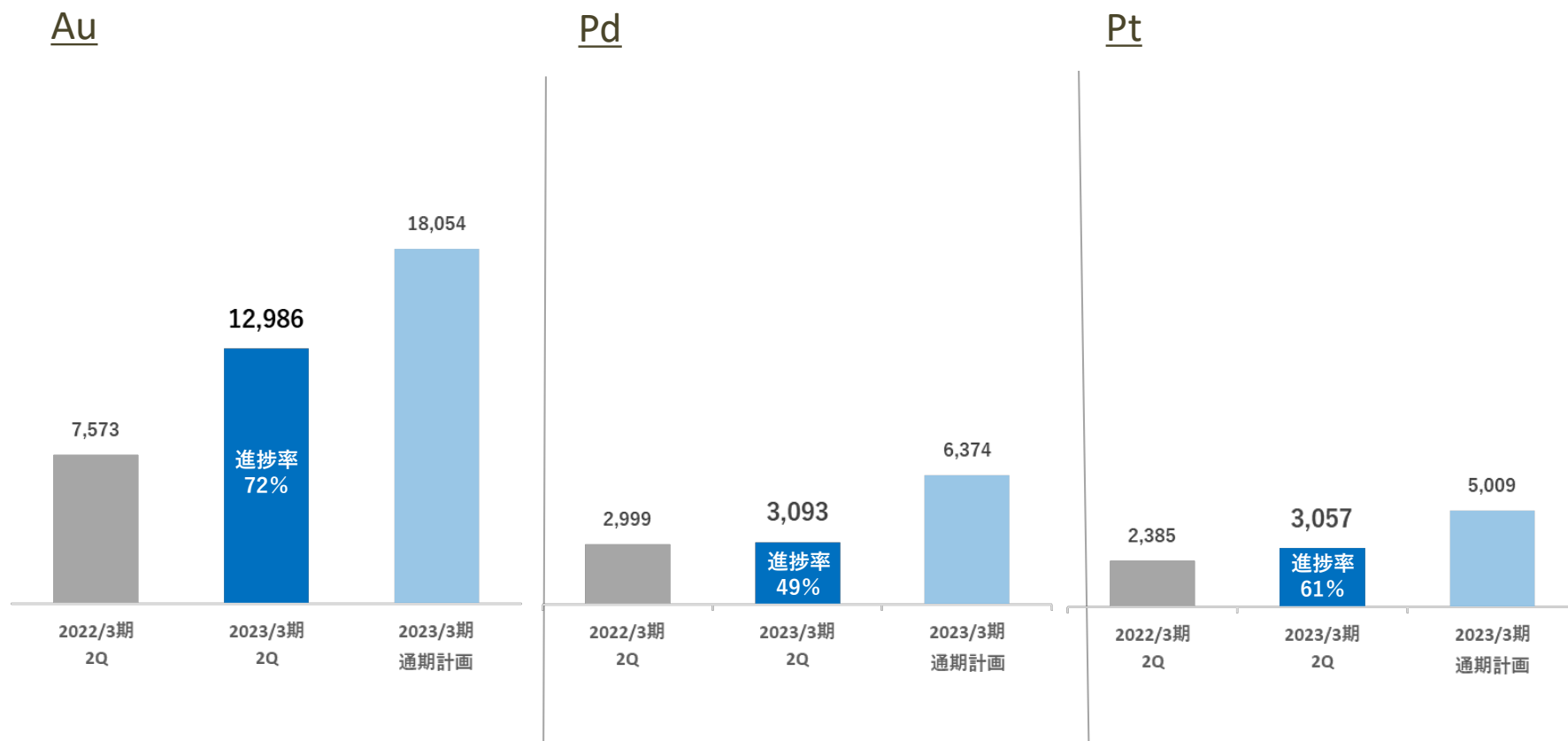
→増収・減益

(単位：億円)

貴金属	2022/3期2Q	2023/3期2Q		2023/3期 通期	
	実績	計画	実績	当初計画	修正計画
売上収益	882	910	1,239	1,810	2,510
営業利益	143	120	117	240	242
利益率	16.2%	13.2%	9.5%	13.3%	9.6%

- ✓ 宝飾分野からの回収量増加が、金及びプラチナの回収量増加に貢献
- ✓ パラジウムの回収量は、宝飾分野及び触媒分野からの回収増加が、デンタル分野の減少を補う

単位：kg



環境保全事業

2023/3期2Q実績

国内の工業生産活動は、引き続き回復基調であり、産業廃棄物の処理量は増加傾向。当社も全体の取扱量が増加し施設の稼働率も上昇。高単価案件を増加させたことで、JWガラスリサイクルの連結除外の影響（売上収益5億円、営業利益1億円）をカバーし更に上回る

→増収・増益

(単位：億円)

環境	2022/3期2Q	2023/3期2Q		2023/3期 通期	
	実績	計画	実績	当初計画	修正予想
売上収益	86	90	88	190	190
営業利益	15	17	21	35	39
利益率	17.6%	18.9%	24.1%	18.4%	20.5%

- ✓ 宝飾分野からの回収・販売が大幅に増加していることを主な要因として売上収益を上方修正
- ✓ 上期実績と下期の動向を踏まえ、営業利益は当初計画を据え置き

単位：億円

	2023/3期			備考
	当期計画	修正計画	増減	
売上収益	2,000	2,700	700	坂東工場稼働後、宝飾分野を中心に回収・販売ともに大幅に増加していることから上方修正
営業利益	240	240	0	上期は貴金属リサイクルの回収分野の構成変化による利益率の低下や持分法適用会社に関する一過性の損失6億円を計上したため営業利益は115億円。下期は貴金属リサイクルの回収分野の構成は現状並みを前提に、北米事業ではカナダでのストックテイクが見込まれること、環境保全を中心に下期の収益が多い傾向がある等上期比増益の要因があることから、通期計画は据え置き
営業利益率	12.0%	8.9%	△ 3.1	
税引前利益	235	226	△ 9	持分法適用会社の損害賠償の一部を負担したため修正
当期利益※1	160	156	△ 4	同上

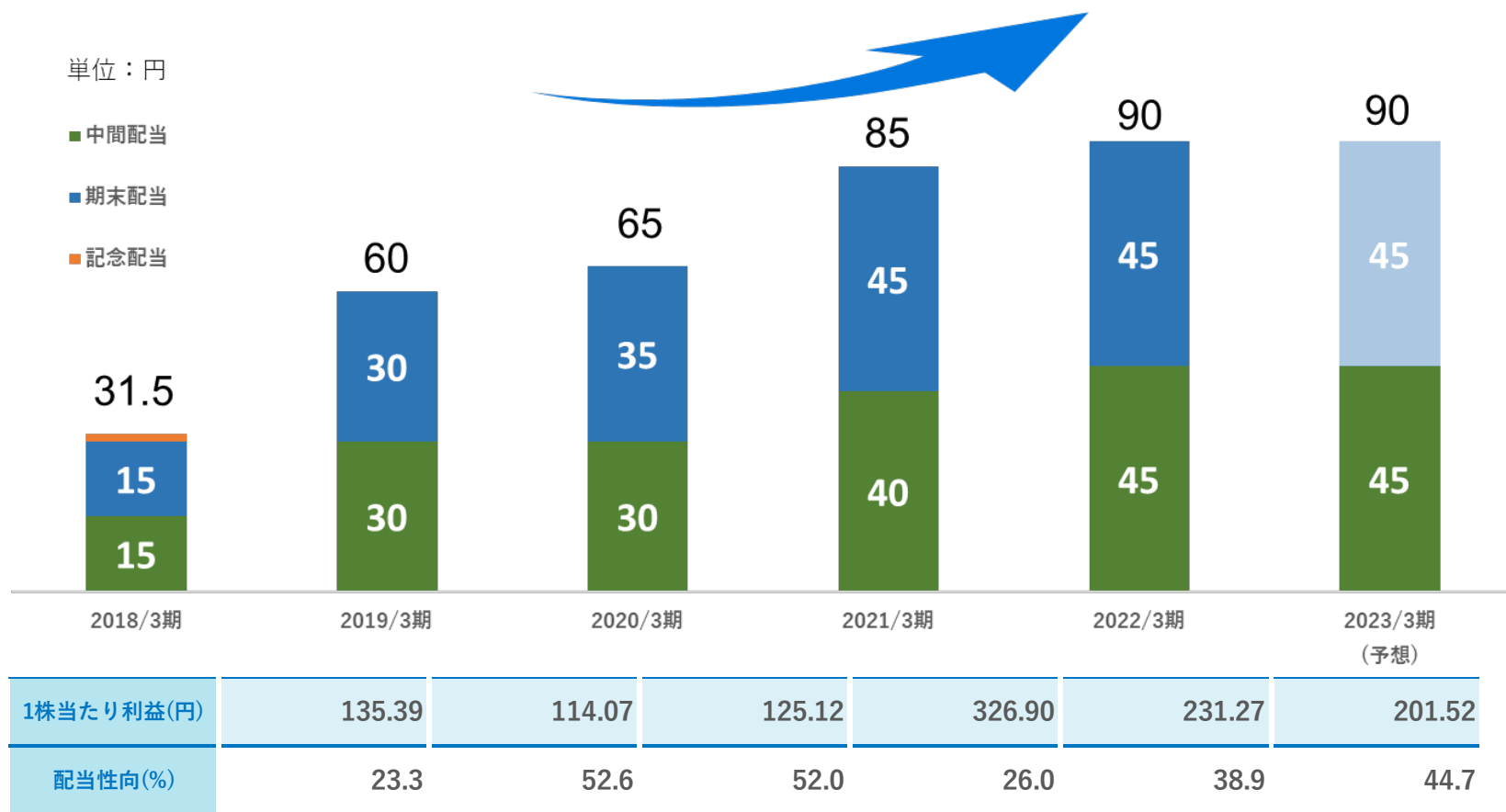
単位：億円

	2022年 3月末	2022年 9月末	増減	備考
流動資産	2,418	2,314	△ 103	
営業債権	1,514	1,269	△ 245	営業債権残高および増減額の大部分は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権。
棚卸資産	634	694	60	棚卸資産残高および増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。貴金属含有量を分析してから購入し、同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに極めて限定的。
その他	269	351	82	
非流動資産	566	542	△ 24	
資産計	2,984	2,856	△ 128	
負債	1,933	1,775	△ 157	
社債及び借入金	1,509	1,426	△ 83	借入金残高の大部分は北米事業の前渡し取引等の借入金。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、この範囲内で借入による前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的。
その他	423	349	△ 74	
資本	1,051	1,081	30	
資本・負債計	2,984	2,856	△ 128	

単位：億円

	2023/3期 2Q	備考
営業活動によるキャッシュフロー	45	
棚卸資産の増減額	△ 60	増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の 貴金属含有原材料/仕掛品/製品 。貴金属含有量を分析してから購入し、同時に先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、品質劣化リスクとも極めて限定的 。
営業債権及び その他の債権の増減額	348	増減額の内、 354億円は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権の増減額 。原料入荷後に貴金属含有量を分析し、この範囲内で借入による前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスク、貸倒リスクとも極めて限定的 。
営業債務及び その他の債務等の増減額	△ 343	増減額の内、 △ 377億円は北米事業の前渡し取引等による借入金 の増減額。借入金の増減額の内、北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増減額として表示される。この借入金はすべて前渡し取引等の地金調達に使われるため、 品質劣化リスクや貸倒リスクはない 。先物取引で貴金属価格をヘッジしているため、 価格変動リスクも極めて限定的 。
その他	100	
投資活動によるキャッシュフロー	0	
財務活動によるキャッシュフロー	△ 21	
借入金の増減	57	
配当金の支払い額	△ 35	
その他	△ 43	
換算差額	16	
現預金の増減額	40	

基本方針：成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保充実を図りながら、
 配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する
 （業績予想修正による影響なし）



※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2020年度までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示



I. 2023年3月期 第2四半期決算
(2022年4月~2022年9月)
Financial Results for Q2 FY2023

II. **参考資料**
Appendix

財政状態

(単位:億円)

	2022年 9月末	北米事業を除いた 場合
流動資産	2,314	1,198
非流動資産	542	542
資産計	2,856	1,739
負債	1,775	658
資本	1,081	1,081
資本・負債計	2,856	1,739

自己資本比率

2022年9月末

37.9%

「前渡し取引」による借入金

北米事業を除いた場合

62.1%



- ✓ 金融サービスに必要な大規模資金を低金利で調達
- ✓ 精練と金融は不可分的であり、北米事業の拡大のために必要
- ✓ 金利上昇時も、北米事業の収益性は概ね不変

- ✓ 6月に子会社のDXE株式会社が、産業廃棄物処理の業務プロセスをデジタル管理するSaaSサービスを収集運搬業者向けに開始、既にサービス利用申し込みがあるなど、順調な滑り出し
- ✓ 9月に経済産業省の「IT導入補助金2022」のIT導入支援事業者にて採択、サービス利用料の最大1/2が補助されることで、契約拡大に弾み



排出事業者



収集運搬業者



処分業者



処分業者・排出業者向けのサービスを今年度4Qから開始予定

✓ SaaSの特長

クラウドで電子マニフェスト管理や受注、配車業務を一元管理
電子マニフェスト代行起票や作業負担の軽減で業務を効率化

電子マニフェスト
代行起票

クラウドで一元管理
ペーパーレス

事務業務時間
60%※軽減

排出事業者の
負担なし

※当社調べ

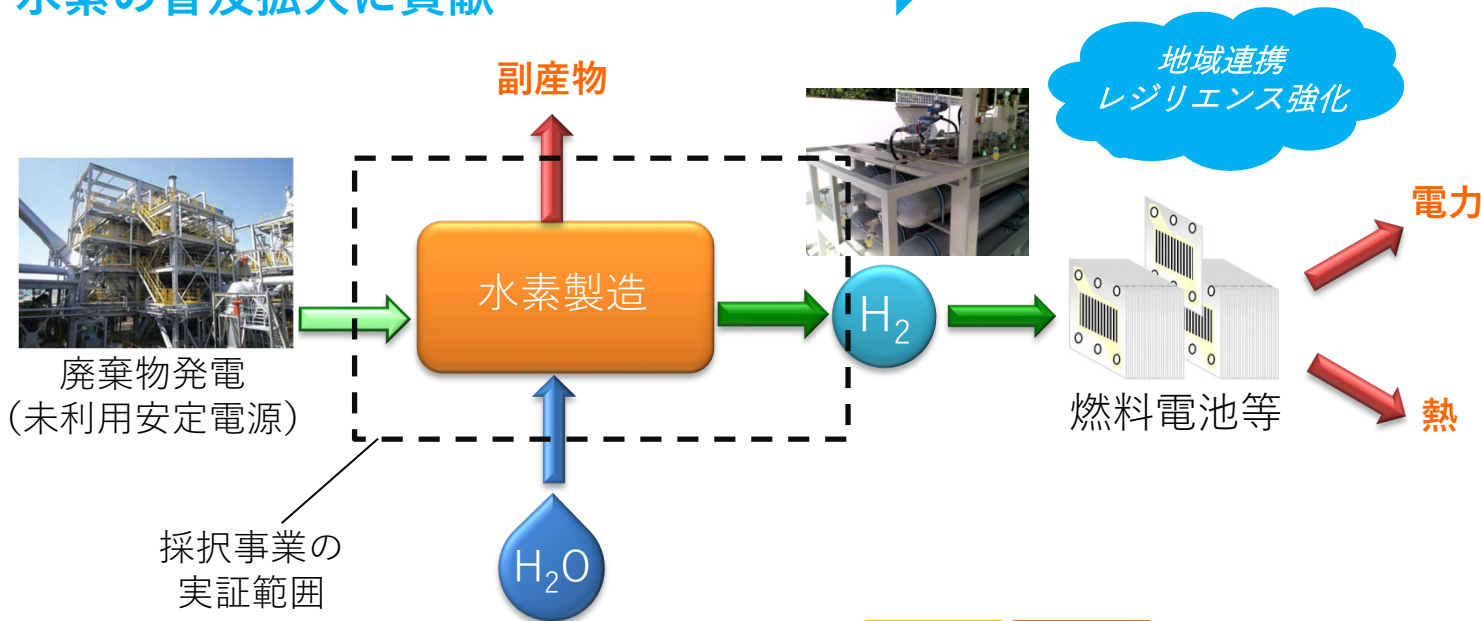


- ✓ アサヒプリテック(株)は、環境省の「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」において、エフシー開発株式会社、株式会社X-Scientia、三井住友信託銀行株式会社と共同で、「グリーン水素サプライチェーン構築に向けたシステム開発」を補助事業として実施中
- ✓ 2022年12月に北九州工場へ水素製造装置の導入が完了し、2023年1月より技術実証試験を開始する予定
- ✓ 水素エネルギーの地産地商に向けて、地元自治体や企業との連携可能性を検討中

副産物の販売により事業性を確保し
水素の普及拡大に貢献



CO₂排出削減



<p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>	<p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>
----------------------------------	-------------------------------	------------------------------	---------------------------	-----------------------------

✓ JPX日経インデックス400

資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される、JPX日経インデックス400に3年連続採用



✓ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するFTSE Blossom Japan Sector Relative Index（GPIFの運用のベンチマーク）に採用



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



投資目的：事業拡大・利益率向上
 第9次中期経営計画（3年間）投資総額：227億円



坂東工場

✓ アジア最大級の最先端リサイクル工場



北米事業
 (精錬&倉庫設備)

✓ 倉庫事業の立上げ&既存設備強化



横浜焼却炉*イメージ

✓ 東日本地域の廃棄物を大型焼却拠点

単位：億円

	2022/3期		2023/3期		備考
	中期 経営計画	実績	中期 経営計画	修正計画	
貴金属事業	63	77	32	58	—
国内	47	40	19	22	水素サプライチェーン構築への投資として約3億円
海外	16	36	13	36	21年度に完成予定施設の期ずれと追加投資
環境保全事業	8	7	22	7	焼却プロセスの見直しによる投資計画の一部見直し
総計	71	83	54	65	3か年の投資総額に変更はない

- ✓ 原材料回収から製品化までの工程を集約
- ✓ 最先端IoT技術の導入により、生産効率を向上
- ✓ BCM（事業継続マネジメント）の観点で優れた工業生産地域
- ✓ 建造物省エネルギー性能表示制度（BELS）において、最高評価とZEB Ready*認証を取得

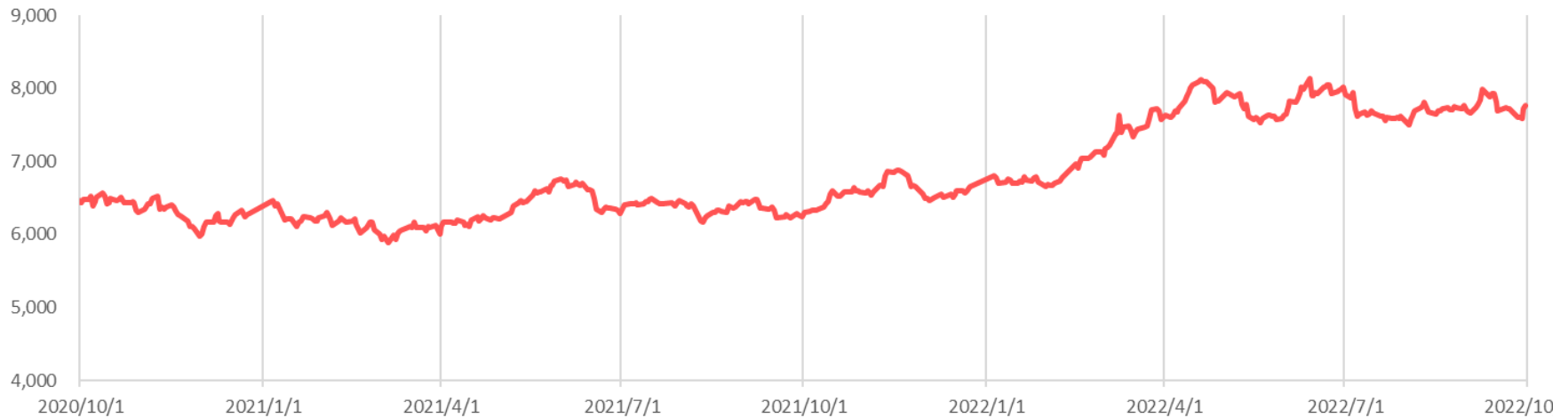


© BANDO CITY.

*BELS（ベルス）建築物省エネルギー性能表示制度…新築・既存の建築物において、省エネ性能を第三者評価機関が評価し認定する制度です。
国土交通省建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）の概要より引用 <https://www.mlit.go.jp/common/001031559.pdf>

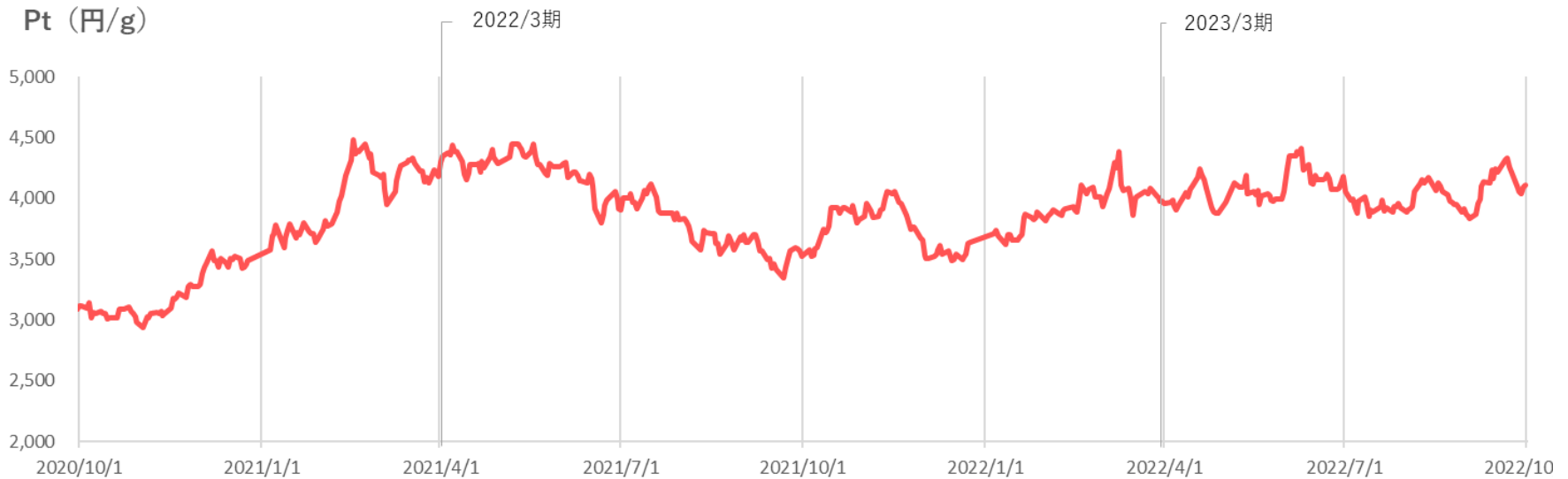
ご参考：坂東市強靱化計画
2011年の東日本大震災の教訓を受けた坂東市が作成した「坂東市強靱化計画」にて
BCMやサプライチェーンの観点から「目標5 経済活動を機能不全に陥らせない」を目標に掲示。
坂東市国土強靱化計画より一部引用 <https://www.city.bando.lg.jp/page/page006456.html>

Au (円/g)



Pd (円/g)





単位：円

貴金属 価格 (1gあたり)	2022/3期 2Q	2023/3期 2Q	
	期中 平均価格	期中 平均価格	増減
金	6,369	7,709	1,340
パラジウム	8,770	9,341	571
プラチナ	3,729	4,018	289

◆参照元

金…山元建値

パラジウム…日経安値

プラチナ…小売価格 (税抜)

2022/03